

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

## A Typification of Elementary School Student' Compositions according to the Linguistic Form

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 笹島, 眞実, SASAJIMA, Manami メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00001530">https://doi.org/10.15084/00001530</a>

## 言語形式に基づく児童作文の類型化

笹島 眞実 (東京学芸大学大学院教育学研究科・大学院生)

### A Typification of Elementary School Student' Compositions according to the Linguistic Form

Manami Sasajima (Graduate school of Education , Tokyo Gakugei University)

#### 要旨

本発表は、児童作文の文章を資料とし、言語形式に基づく類型化を目的に、分類指標と手続を提案する。先行研究(小林,1953・土部・宝示,1963)により、分類指標を①接続詞の有無②時間の経過を示す語の有無③文数の3観点とし、類型を「散叙型」(「バラバラ文」)・「連叙型」(「ダラダラ文」)・「話題型」の3類型とした。指標に基づき小学3～5年生の計140名の作文を対象に分類調査を実施したところ、3年生では「散叙型」が約3割、「連叙型」が約4.5割と分布が二分したのに対し、4・5年生では「連叙型」が全体の約6～7割を占めるとの結果が得られた。これらより、中学年期に「散叙型」から「連叙型」へと、類型の変化が生じると考えられた。ただし、より熟達した文章を考慮すると、「散叙型」及び「連叙型」の下位分類も含めた5ないし6類型とすることが妥当であり、類型化の指標に文章の一貫性やttrを加えた改良が考えられ、今後の課題としたい。

#### 1. はじめに

本稿では言語形式に基づいた児童作文の類型化モデルを提案する。またモデルの有用性を検証するため、児童作文の資料による分類実験を行い、本稿の提案モデルによって分類可能な類型や改良を必要とする手続について検討した。

#### 2. 児童作文の文章類型

##### 2.1 言語形式に基づいた文章型

小林(1953)では、「運動会」というテーマで書かれた1年生から6年生の児童の作文を分析し、「羅列的記述」・「一つの事柄の記述」・「時間的記述」・「一主題による記述」の4つの文章類型を得られたとしている。更に、各類型について下位分類も提示しており、「羅列的記述」及び「事柄の記述」はそれぞれ4種類、「時間的記述」は2種類に分かれている。図1に下位分類も含めた文章類型の一覧と特徴の概要を示す。図1より、各類型について、接続詞(「はじめは」「つぎは」「おわりに」などの時間経過を示す語(以後、時間経過語とする)も含む)・文章量(文数)・前書きの有無などの特徴を見出していることが分かる。

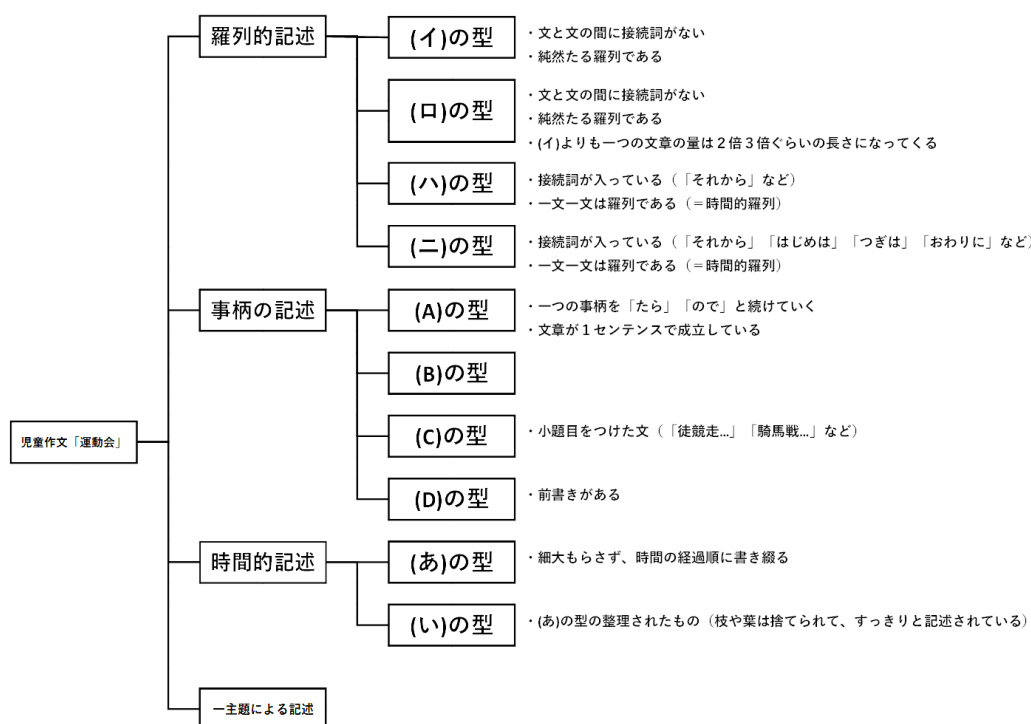


図 1 小林(1953)における児童作文の文章型と特徴

## 2.2 文章意識に基づいた文章様式

土部・宝示(1963ab・1966ab)では、「叙事(的記述)文」に該当する「運動会」作文、「記事(的記述)文」に該当する「友達」作文と「私」作文の全3テーマで書かれた1年生から6年生の児童作文について、「文章」「全一」として意識する「まとめの意識」である「文章意識」の観点から全6様式への分類を試みている。図2に土部・宝示(1963a)における文章様式の一覧を示す。

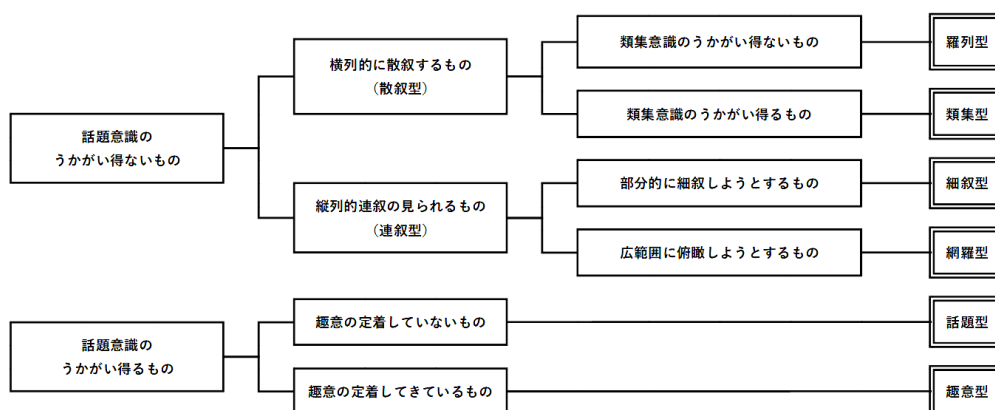


図 2 土部・宝示(1963a)における児童作文の文章類型

なお、この分類は「題材」「趣意」のあり方、「要求」の現われ方等の差異が文章の様式差を生じさせる、と想定していることから、テーマごとに基準の一部や分類名の変更がなされている。以下に土部・宝示(1963b・1966a)における変更点を記す。

土部・宝示(1963b)「友達」作文

- ①「ただ横列的に散叙するもの」→「客観的に描写し得ないもの」
- ②①は更に2つの下位分類を持つ。
  - 「自己の行動表現の内部において叙述するもの」→「包摂型」
  - 「自己の行動表現をも伴って叙述するもの」→「供述型」
- ③「縦列的連叙の見られるもの」→「客観的に描写し得るもの」となり、分類名は「描写型」
- ④「趣意の定着してきているもの」は2つの下位分類を持つ。
  - 「全体として趣意が一貫していないもの」→「混成型」
  - 「全体として趣意が一貫してきているもの」→「統一型」

土部・宝示(1966a)「私」作文 ※「友達」作文からの変更点

- ①「自己の行動表現の内部において叙述するもの」→「なお、題材を、それを含む事態の中から分立させ得ないもの」となり、分類名は「包摂型」→「未分型」
- ②「自己の行動表現をも伴って叙述するもの」→「題材を、それを含む事態の中で卓立させようとしているもの」となり、分類名「供述型」→「卓立型」

以上より、作文のテーマ設定の違いが、様式分類における分岐内容の違いに影響することが分かる。本稿では「運動会」作文と同種類の「叙事(的記述)文」といえる「朝起きてから学校に来るまで」作文を対象とすることから、以後土部・宝示(1963a)で使用されている6様式を扱うこととした。

### 3. 言語形式に基づいた類型化モデル

2.1及び2.2で示したもののうち、小林(1953)の分類基準と土部・宝示(1963a)分類の種類を用いて、類型化モデル(図3)の構築を試みた。なお、両者の提示する文章類型について、土部・宝示(1963a, p.104)は、「そこに見られる四様式と本稿における六様式とは、それぞれの順序のままに対応するような関係にはないようである。が、相応するところもあるやに見られる。」と述べている。このことから、両者の提示する文章様式には共通性や関連性があることが示唆される。本稿では、土部・宝示(1963a)にある「文章意識」や「話題意識」が分類実施者の主観に左右されやすいことを鑑み、小林(1953)の言語形式に基づく分類基準を採用し、土部・宝示(1963a)で用いられた六様式への分類を実施することとした。ここでは、類型化モデルを構築するにあたり、採用した分類基準と条件分岐について説明する。

まず、分類基準については、小林(1953)で提示されていたもののうち、文数(文章量)・接続詞・時間経過語を用いることとした。文数については、句点の数を計量したものとし、引用句における句点は予め除いている。接続詞については、作文資料を『Web茶まめ』で解析した際に接続詞として出力されたものとした。本稿における時間経過語は、小林(1953)で時間経過語として例示されている語を参考に、形態素解析では名詞として分類されるものの中で、時間の経過を意味する語彙のことを指す。以下に採用した時間経過語を五十音順で記す。

最初に／最後に／そうして／そしたら(そうしたら)／その後／その次(次に・次)  
その時(時)／その前(前に)／それから／それで(で)／まず

次に、条件分岐については、(1)接続詞と時間経過語の種類、(2)接続詞と時間経過語の合計使用度数、(3)文数を条件内容として用いることとした。

(1)では、無し・1種類・複数種類の3分岐を想定している。

(2)は、(1)の内、複数種類のみを条件分岐とし、合計使用度数が3以上か未満かで数値基準を設定した。数値基準を設定するにあたり、土部・宝示(1963a)における「話題型」「趣意型」の作文例について計量的調査を実施したところ、「話題型」では接続詞及び時間経過語いずれも無し、「趣意型」では接続詞1種類1語、時間経過語2種類2語という結果が得られた。以上から、「話題型」(及び「趣意型」)に分類される文章の接続詞や時間経過語の使用の特徴としては、「無し」又は「使用度数が3程度」のいずれかであると考えられる。また、本稿で使用した作文資料において、合計使用度数の中央値が2であったことと合わせ、3以上であれば非話題型、3未満(2以下)であれば話題型 or 散叙型・話題型 or 連叙型へ分類されるようにした。

(3)は、合計文数が8文以上か未満かで数値基準を設定した。数値基準を設定するにあたり、本稿で使用した作文資料において、文数の中央値が7であったことを踏まえ、8以上であれば「長い」作文とし、8未満(7以下)であれば「短い」作文として区別することとした。

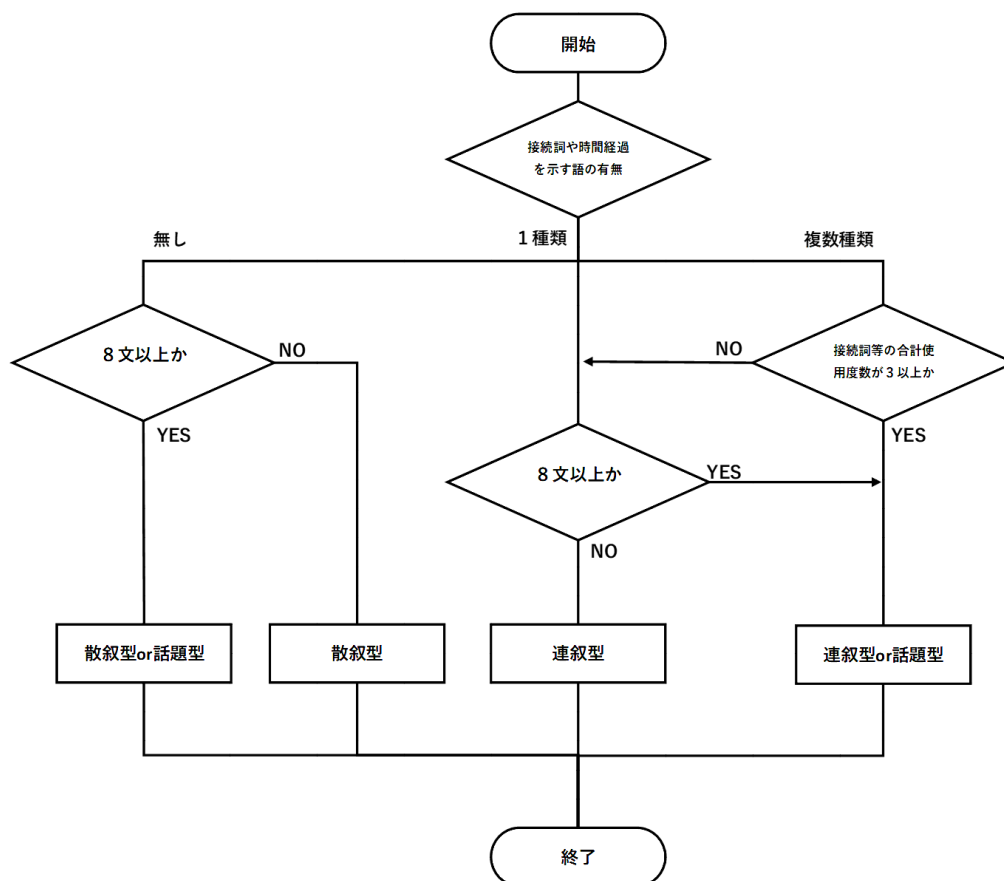


図3 児童作文の類型化モデル

## 4. 分類実験

### 4.1 実験条件

作文資料には、都内公立小学校2～5年生を対象に行った作文調査のうち、3～5年生145名(3年生:49名,4年生:47名,5年生:49名)を対象とし、図3のモデルに基づいて分類実験を行った。なお、この作文資料は「朝起きてから学校にくるまで」について児童に記述してもらったものである。分類実験を行うにあたり、小林(1953)及び土部・宝示(1963a)では1文以下の作文を考慮していないことから、145名のうち全文数が1文以

下の作文については分析対象外とした。以上より、実際の作文使用数は140名（3年生：48名、4年生47名、5年生45名）となっている。

#### 4.2 実験結果

表1は類型化モデルによる分類を実施した結果について、学年別に示したものである。

表1 学年別 児童作文 分類結果

分類	3年生		4年生		5年生	
	人数	%	人数	%	人数	%
散叙型	15	31.3	2	4.3	8	17.8
連叙型	22	45.8	36	76.6	30	66.7
散叙型 or 話題型	6	12.5	3	6.4	2	4.4
連叙型 or 話題型	5	10.4	6	12.8	5	11.1
合計	48		47		45	

表1より、3年生では「散叙型」31.3%、「連叙型」45.8%とやや連叙型が高いものの、散叙型と連叙型で人数分布が二分する結果となった。一方4年生では「散叙型」4.3%、「連叙型」76.6%、5年生では「散叙型」17.8%、「連叙型」66.7%といずれの学年も、3分の2以上が「連叙型」に分類される結果となった。このことより、3年生と4年生の間で文章類型の選択や使用についての変化が生じると考えられる。

#### 4.3 課題

類型化モデルを用いて分類を行ったところ、大きく2つの課題点が明らかとなった。

1点目は散叙型及び連叙型か話題型の区別についてである。以下に「散叙型 or 話題型」「連叙型 or 話題型」に分類された文章を例示する。

##### 「散叙型 or 話題型」

朝起きたよ。朝御飯を食べたよ。学校に行く準備をしたよ。テレビを見たよ。家で育てている花を見たよ。お父さんとお母さんが話す声が聞こえたよ。セミの鳴き声も聞こえたよ。お姉ちゃんとお姉ちゃんの友達が話している声も聞こえたよ。

【出典】「朝起きてから学校に来るまで」作文 3年女子

##### 「連叙型 or 話題型」

朝は、五時三十分に起きました。階段を下りてZ会をしています。キッチンではお母さんが朝食を作っています。六時三十分ごろから朝食を食べます。朝食は焼肉おにぎりバーガーや卵焼きなどを食べます。七時十五分ごろに食べ終わり、歯磨きをします。次にハンカチや給食袋を用意します。鉛筆削りをやります。ダンスをあげ着替えをします。全ての準備が終わったら玄関のドアを開けてランドセルを持ち外に出ます。友達の\*や\*などと一緒にサッカーの試合などを話したりしながら学校に行きます。

【出典】「朝起きてから学校に来るまで」作文 5年男子

文章全体を見通すと、上記2例についてはそれぞれ「散叙型」や「連叙型」であることは明らかである。しかし、本稿で観点とした文数・接続詞・時間経過語の3観点に絞り分類を実施すると、「話題意識がうかがい得る」ことを判別することが出来ず、「散叙型」や「連叙型」であるにも関わらず「話題型」である可能性を含めた分類になってしまう。これは「話

題意識」が「何」について叙述するかを固める「話題」設定の意識」であるため、作文の内容的側面に着目し判別する必要があるためだと考えられる。

2点目は散叙型及び連叙型の下位分類についてである。まず散叙型・散叙型 or 話題型のいずれかに分類されたものの中で、羅列型・類集型それぞれに分類されると考えられる文例を以下に示す。なお、本文中に個人名や地名が出ている場合は\*に置換している。

#### 「羅列型」

今日お母さんとけんかしました。家から出ると隣の家の\*と\*とスプラトゥーンの事を話しながら行きました。朝ご飯はみそ汁を飲みました。美味しかったです。

【出典】「朝起きてから学校に来るまで」作文 3年男子

#### 「類集型」

セミになんで鳴いているの。と聞いたよ。セミになんで七日で死んじゃうの。と聞いたよ。虫の鳴き声を聞いたよ。色々な植物を見たよ。ちょこにエサをあげたよ。犬が静かに歩いていたよ。学校に行く準備をしていたよ。セミが羽化していたよ。昨日より、クマゼミが増加しているのに気付いたよ。ニイニイゼミが沢山落ちていたよ。カラスがセミを食べていたよ。

【出典】「朝起きてから学校に来るまで」作文 3年女子

土部・宝示(1963a)では「羅列型」と「類集型」の判別において、「同類のものを一同に会させる意識」である「類集意識」の有無を基準としている。文例では、出来事の中でも昆虫に関することを中心に話が展開している点で、「類集意識」があると捉えることができる。

次に連叙型に分類されたものの中で細叙型・網羅型にそれぞれ分類されることが予想できる文例を以下に示す。

#### 「細叙型」

今日は、七時に起きました。次に、七時二分に、お母さんの影が見えて、こっちにやって来ました。そして、「早く支度しなさい」と、どなられた。次に、パンと、ぐちゃぐちゃたまごを食べた。僕は、とても美味しかった。そして、薬を飲んだ。僕は、「薬飲むのめんどくさい。」と心の中で思った。そしたら、洗濯機が服を洗う音がした。「ドドドドドドド。」変な音だ。服を着替えた。そして、歯ブラシをした。そして、トイレへ。「ふー気持ちいい。」

【出典】「朝起きてから学校に来るまで」作文 5年男子

#### 「網羅型」

朝起きて、まず、1階に下りました。その次に、クワガタを見ました。後、バトルをさせました。それから、昆虫の図鑑で、クワガタとカブトムシを調べました。

六時三十分くらいから、ご飯を食べました。メニューは、みそ汁、しらす、ご飯、鶏肉などでした。

七時十五分くらいに着替え、半そで半ズボンに着替えました。

それから、支度をしました。

八時四十五分くらいに、ランドセルをしょって、家から出ました。

学校に行くまでは、ミミズの死体、ヒルの死体や、猫がいました。セミを捕まえようとしたけど、逃げられました。セミの鳴き声がシャーと言っていました。

分かれ道では、友達四人に会いました。その中の一人と、弟と、カブトムシや、クワガタムシの話しながら学校の通学路をゆっくり歩きました。

途中で、車の音、靴のカタコトという音など、たくさんの音が聞こえてきました。学校が近くなるにつれて、子供の声がワイワイしてきました。

## 【出典】「朝起きてから学校に来るまで」作文 4年男子

土部・宝示(1963a)では「細叙型」と「網羅型」の判別において、ある事象を「部分的に細叙し」ているか、「広範囲に俯瞰し」ているかを基準としている。「細叙型」の文例では「朝起きてから学校に来るまで」の事柄の中でも家を出発するまでのことについて、自身の心の声も織り交ぜ展開させている点が「部分的に細叙し」ていると言え、「網羅型」の文例では「朝起きてから学校に来るまで」の出来事を時系列に沿って漏れなく書き記そうとしている点が「広範囲に俯瞰し」ているものと言える。

しかし、本稿における類型化モデルでは、下位分類を含めた6類型のモデル提案まで至らなかった。散叙型及び連叙型いずれの下位分類についても、書き手が意識して類似事象を並べているか否か、時系列の中で全体か部分的か、についての分類であることから、話題型か否かの区別と同様に、叙述内容の明確化と焦点化がそれぞれどの程度なされているかが分岐の要素となってくると考えられる。

以上いずれの課題点についても、文章の一貫性との関連を考える必要があり、言語形式及び計量的観点から ttr を観点として新たに加えることで、下位分類の追加や話題型への分岐点での精度の向上ができ、より詳細な類型化モデルの構築を提案することができると考える。

## 5. おわりに

本稿では、児童作文の言語形式に基づく類型化を目的に、分類指標と手続の提案を行った。分類指標として①接続詞の種類②時間経過語の種類及び合計使用度数③文教を使用し、「散叙型」「連叙型」「話題型」の3類型への分類を実施したところ、「散叙型」及び「連叙型」については上記3観点によって分類が可能であることが分かった。また小学3年生と小学4・5年生では「散叙型」と「連叙型」の割合の様相が異なることから、小学3年生と4年生の間で、類型の使用や選択の変化が起こることが考えられる。

一方で、「話題型」への分類については、現在の類型化モデルでは「散叙型 or 話題型」及び「連叙型 or 話題型」にとどまる結果となった。「散叙型」及び「連叙型」の下位分類を含めた5ないし6類型の分類と併せて、分類指標に文章の一貫性や ttr を加えた改良を検討していきたい。

## 文 献

- 国立国語研究所(1953).『現代語の語彙調査 婦人雑誌の用語』,秀英出版  
 小林喜三男(1953).「児童作文の文章型—児童言語研究その3—」『新しい教室』8:2,pp.28-31  
 土部弘・宝示重美(1963a).「文章意識の発達(第1報)」『大阪学芸大学紀要C 教育科学』4,pp.92-104  
 土部弘・宝示重美(1963b).「文章意識の発達(第2報)」『大阪学芸大学紀要C 教育科学』5,pp.40-50  
 土部弘・宝示重美(1966a).「文章意識の発達(第3報)」『大阪学芸大学紀要C 教育科学』6,pp.78-89  
 土部弘・宝示重美(1966b).「文章意識の発達(補注)」『大阪学芸大学紀要C 教育科学』7,pp.112-128

## 関連 URL

形態素解析ツール『Web 茶まめ』 <http://chamame.ninjal.ac.jp/>